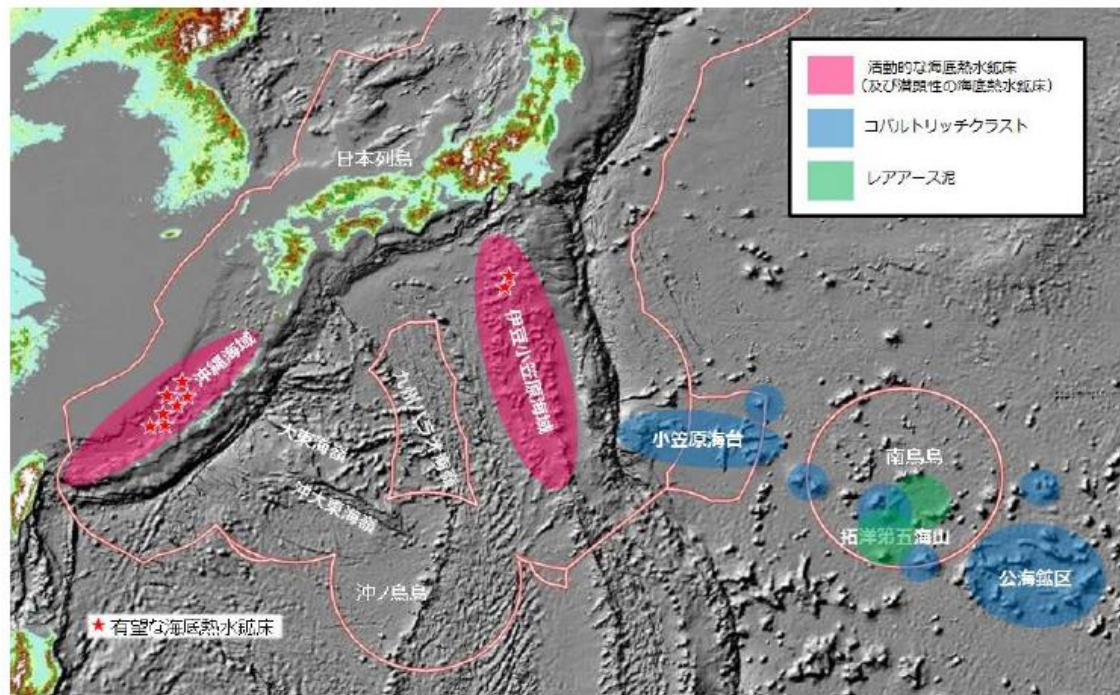
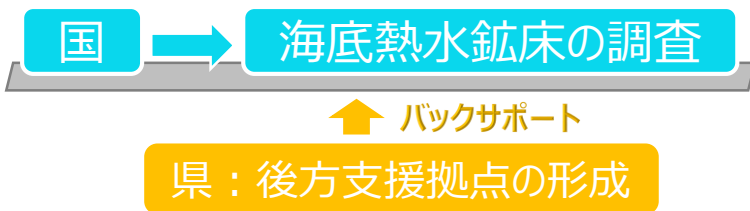


## 1章 沖縄近海における海底熱水鉱床について

沖縄近海では、海洋鉱物資源である、銅や亜鉛などを含む海底熱水鉱床の賦存が確認されている。沖縄近海の海底熱水鉱床の開発は、経済性や法整備等、解決すべき課題が多くあり、「海洋基本計画」に沿って、国が主体となって調査・研究を行っている。本県においても、将来の産業化を見据え、「海洋調査・開発支援拠点」の検討を進めている。



国周辺海域に賦存が期待される鉱物資源の分布状況  
 出展：平成31（2019）年2月15日 海洋エネルギー・鉱物資源開発計画（海底熱水鉱床：P.53）



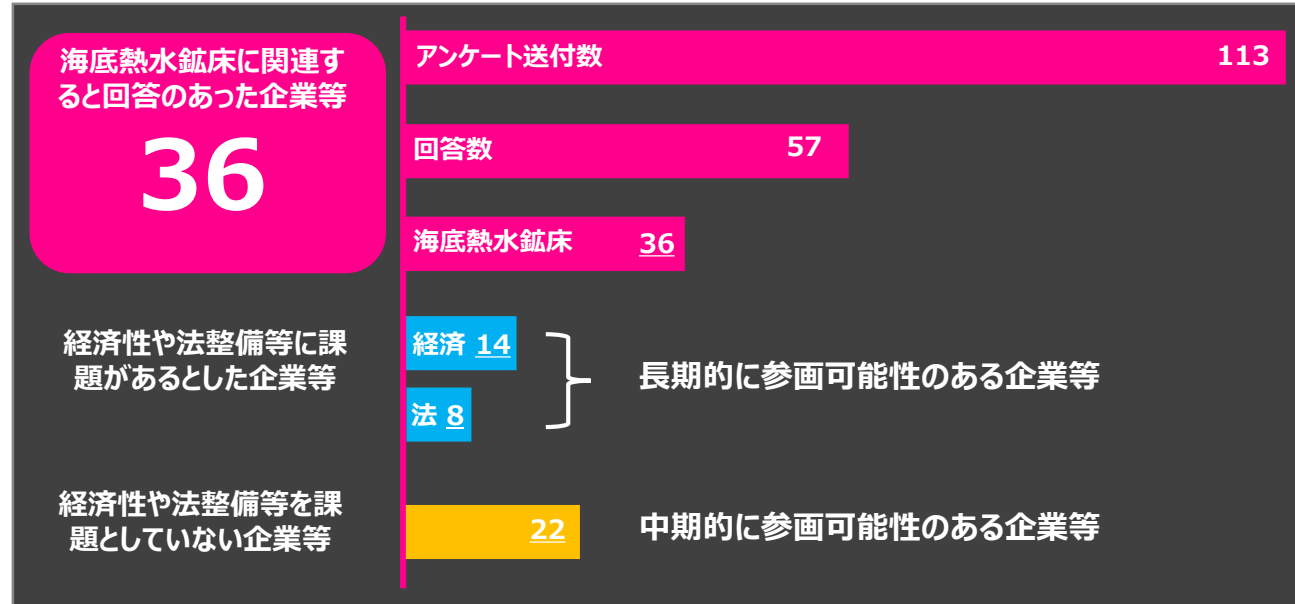
## 2章 支援拠点形成に向けた課題の整理

本県では、平成25年度から、国等における海洋資源開発の動向に注視しながら、海洋調査・開発支援拠点形成に関する取組を行っている。広く海洋資源を対象とした可能性調査から始まり、小学生をはじめとする学生を対象とした海洋教育などの人材育成、海洋に関する周知広報、国等の関係機関からの情報収集に基づいた支援拠点形成の検討などに取り組んできた。平成25年度から令和2年度までの県の取組において把握した課題としては、関連する企業等の誘致や寄港地の整備、法整備等となっている。



### 3章 企業等（国等の研究機関含む）へのサウンディング

令和2年度までの取組で明らかとなった課題を踏まえ、令和3年度は、参入可能性のある企業等（プレイヤー）を抽出した上で、当該プレイヤーに対して、経済性や法整備等の課題に対するアンケートを実施し（全113者）、企業等が認識する課題やニーズの調査を行った。また、経済性や法整備等の課題については、解決までに長期的取組を要することから、長期と中期の時間軸において検討を行った。

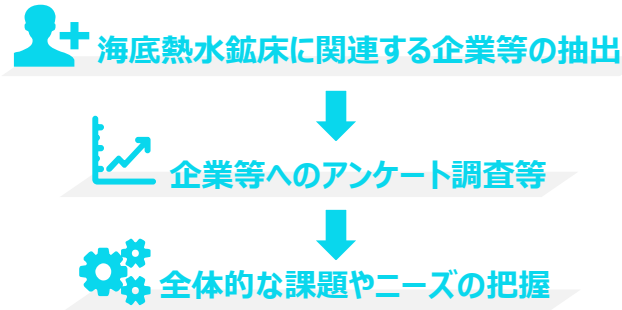


### 4章 今後の取組

令和4年度は、国等の研究機関や民間事業者へのヒアリング調査を実施し、個別具体的な課題の把握および、支援拠点形成に向けたニーズ等の条件を整理し、想定される事業環境や支援策の検討を行い、参入可能性のある企業等を特定することを予定している。

また、支援策の検討においては、ニーズの規模を把握し、費用対効果や実現可能性、支援のタイミング等の指標に基づいた検討を行う。

#### 令和3年度



- ・経済性
- ・法整備
- ・社会的受容性
- ・サンプルの保管
- ・用地、設備への支援
- ・寄港地の利便性向上

#### 令和4年度

